

参議院農水委

農家所得を増やすため価格制度や支援制度の見直しを 紙議員が酪農・畜産政策転換を求める

生産コスト、設備投資額が増大
規模拡大の政策から多様な経営形態支援の農政へ

日本共産党の紙智子議員は14日の参議院農林水産委員会（閉会中審査）で、現行の酪農・畜産政策では農家の所得は増えないとして、価格制度や支援制度を見直すよう求めました。



質問する紙智子議員＝14日、参議院農林水産委員会

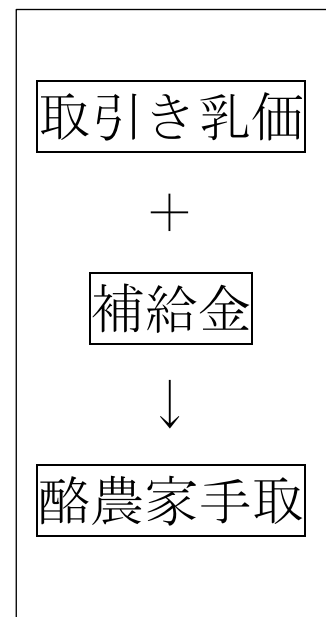
紙議員「農家所得が減っており
補給金は引上げを」
農水相「算定基準にのっとり
決定する」

J A北海道中央会の調査によると、生乳1キロあたりの農家所得は2003年度に300円程度あったものが現在は200円以下に低下。安倍内閣は「農業所得の倍増」をうたっていますが、所得は減り続けています。

紙議員は「所得を倍増させるためには、加工原料乳生産者補給金を大幅に引き上げるべきだ」と強調。また、生クリームは補給金の対象外であるため、「売れば売るほど赤字になる」として「乳製品全体を見て予算を有効に使える仕組みにするべきだ」と述べました。

西川公也農水相は「算定ルールにのっとり、適切に決定する」というだけで、補給金の引き上げや見直しには言及しませんでした。

紙議員は、1日10時間働いても、可処分所得は年間250万円ほどしかない酪農家の実態を紹介。所得の低下で生産コスト、設備投資にお金がかかり、酪農に歯止めがかからないことが、生乳生産量も不足させているとして、輸入飼料に依存し、大規模化を目指す畜産政策を検証し、多様な経営形態・担い手を支援するよう要求しました。



日豪EPA
農水相「セーフガードがあるから影響は限定的」
紙議員「牛タン、ハラミは対象外。影響評価はやく」

また、15日に発効した日豪経済連携協定（EPA）について、政府は輸入牛肉の関税は下がるが、緊急輸入制限（セーフガード）があるから影響は限定的と説明しています。

紙議員は、内臓・くず肉（牛タン、ハラミ等）はセーフガードの対象になるのかと質問。西川農水相は、セーフガードの対象でないことを認めましたが、「内臓等は（輸入）数量を決めて、その枠内しか輸入しないので、影響はでない」などと答えました。紙議員は、輸入実績と関税率が下がることを示し、影響評価を速やかに行うよう求めました。

